

# 地域文化創造機構 ニューズレター

Institute for Creating Local Culture Newsletter

Vol.09 2015.5.20

## 活動報告

### トピックス 1

## 岩手県普代村と連携協力協定を締結

教育支援課課長 井上 和子  
係長 石田 弘樹  
(地域連携担当)

4月23日(木)午後、追手門学院大学で岩手県普代村と学校法人追手門学院との連携協力に関する協定の締結式が行われました。

地域文化創造機構では、普代村に古くから伝わる国の重要無形民俗文化財である鶉鳥(うのとり)神楽の復興を支援しています。2014年には鶉鳥神楽を茨木神社に招き、代表的演目である「恵比寿舞」などととも「羅生門」も演じていただき好評を得ました。「羅生門」には、酒吞童子の筆頭家来とされ、現在は茨木市のマスコットキャラクターでもある「茨木童子」が登場します。

本学と普代村にはこのような経緯があって協定締結となりました。追手門学院と普代村は今後、村の人口減少対策としての人的交流促進や知的・物的資源の相互活用、地域産業振興やまちづくりのための事業実施など、保健、福祉、産業、環境、教育、文化、まちづくりなど幅広い分野において相互協力することになります。

23日は普代村から<sup>まきやのぶお</sup>征屋伸夫村長をはじめ4人の関係者が本学を訪問、締結式に出席しました。

征屋村長たちは式の後、国内唯一のオーストラリア専門図書館「オーストラリアライブラリー」や、松下幸之助氏から

の拠金をもとに建設された日本文化研修道場「松籟庵」、学校史を展示している「將軍山会館」などを見学しました。

夕方からは阪急茨木市駅前にある地域文化創造機構活動拠点「連携考房 童子」に場所を移し、普代村の方々と機構の研究員との交流会が開かれました。

交流会では、普代村側の津波対策の歴史、東日本大震災被害からの災害復興計画などについて、DVDで紹介。今回の震災で幸い村内の死者はゼロながら、漁港施設などに

壊滅的な被害を受け、大半の村民が生計を得ただけにダメージが大きかったことなどを説明しました。普代村の復興とまちづくり・地域づくりに、本学の「知」を生かすことが課題として浮き彫りにされた交流会となりました。

### 「連携協力に関する協定」



征屋伸夫村長(左)と川原俊明理事長(右)

### トピックス 2

## 果敢なるクラシック音楽への挑戦

追手門学院大学客員教授 門田 展弥

2011年5月に始まった追手門ファミリークラシックコンサートが4月に第15回を、そして2012年4月に始まったアドバンスト・リサイタルが3月に第30回を迎えました。ファミリークラシックは外来の一流アーティストの演奏をワンコインで提供するとともに日本の音楽家と彼らとのコラボレーションの場を作ろうというものであり、アドバンスト・リサイタルは将来有望な音楽家にリサイタル(独唱独奏による演奏会)の機会を提供しようというものです。そして、両者に共通しているもう一つの重要な目標、それは「よき聴衆」を育てることです。なぜ音楽大学ではない追手門学院大学がこのようなプロジェクトに取り組むのでしょうか?戦後日本の音楽界はヨーロッパに負けないような音楽家の育成に力を注いできました。その結果、今日では国際コンクールに優勝する逸材も育つようになりましたが、他方聴衆を育てることは殆ど無関心であったため現在の日本のクラシック人口は東



第15回ファミリークラシックコンサート「日本・イタリア音楽家交流コンサート2015」(4月4日)

京でさえ1%と言われるようになりました。通常、海外の一線級演奏家のコンサートをワンコインで開催する音楽事務所はありませんし、卒業生にリサイタルの機会を与える音楽大学ありません。

ファミリークラシックもアドバンストも音楽界の常識を根底から覆す試みであり、それ故に追手門学院が社会に対し多大な貢献をなし得る革新的プロジェクトなのです。実際、両シリーズの前身に当たる追手門プレゼンツ毎日文化センタークラシック(2007年7月~2013年2月)以来、関西のみならず全国のクラシック界に与えたインパクトには非常に大きいものがあります。これまで東京、神奈川、山梨など関東圏からも多くの音楽家が来演したことを見れば、今や両シリーズが全国的な広がりをもつに至ったことお分かり頂けると思います。

ここ30年来、小学校でクラシックに接するチャンスが激減しています。この時期にクラシックとの接点を作らなければ、その後の長い人生においてクラシック、芸術音楽に親しむことは極めて困難となります。昨今どこでも20代、30代の聴衆を見掛けることは殆どなく聴衆の高齢化が一挙に進行していますが、その原因は正にこの点にあるのではないかと思われます。ともあれ、「よそでやっているのではやらない」「同じものは繰り返さない」という無鉄砲なモットーを自らに課し毎回の企画を練っている次第です。



第30回アドバンスト・リサイタル  
「大澤悠子ピアノリサイタル」(3月29日)

追手門学院大学と国立民族学博物館との学術交流協定が、4月22日（水）に国立民族学博物館において締結された。

本協定にもとづき、2015年度には追手門学院大学地域文化創造機構（以下、機構）と国立民族学博物館（以下、民博）が、「地域文化の継承と創造」のテーマで共同研究を行なう。このテーマに関連して、従来、機構と民博は、それぞれに「文化復興と芸術創造」と「文化遺産の人類学—グローバル・システムにおけるコミュニティとマテリアリティ」という研究課題の調査研究に取り組んできた。両機関は、これらの個別の研究が「地域文化の継承と創造」という共通の課題にアプローチしていることから、研究協力が相互の研究成果に相乗的効果をもたらすと確認し、今回の学術交流協定の締結を決定した。当面は、両機関内において研究会を開催し、これまでの両機関による研究成果の情報交換と共有化をはかる。

機構と民博は、今後の研究協力を円滑に運営するために、「地域文化の継承と創造」という統一テーマについて3つの研究分担課題を設定し、各機関から研究委員を選出した。研究分担課題は、1) 地域文化の創造的継承、2) 観光による地域文化振興、そして3) 災害後の文化復興という3領域に設定された。研究委員の構成、3つの研究分担課題とその担当委員は、次の通りである。

研究委員の構成

追手門学院大学	地域創造学部教授（機構長）	河合博司
	地域創造学部教授（機構研究員）	安村克己★
	地域創造学部教授（機構研究員）	橋本裕之
	社会学部教授（機構研究員）	足立重和
	経営学部准教授（機構研究員）	村上喜郁
国立民族学博物館	文化資源研究センター教授（副館長）	吉田憲司
	研究戦略センター教授	關雄二 <small>せきゆうじ</small>
	先端人類科学研究部准教授	飯田卓 ★
	文化資源研究センター准教授	日高真吾

（★印は研究幹事）

研究分担課題と担当委員

	追手門学院大学	国立民族学博物館
1) 地域文化の創造的継承	河合・足立	吉田・飯田
2) 観光による地域文化振興	安村・村上	關・飯田
3) 災害後の文化復興	橋本	吉田・日高



坂井東洋男学院長・学長(左)と須藤健一館長(右)

今後、両機関は、「地域文化の継承と創造」の研究テーマを継続的に探究し、その研究成果について、合同研究会や公開シンポジウムなどの開催を通して一般に広く公開する予定である。

催し物ご案内（予定）

イベント名	開催日時	入場料・定員等	お申し込み・会場等
<p>●追手門学院大学創立50周年記念事業</p> <p>アドバンスト・リサイタル vol. 32 「高山 俊昭 レクチャーコンサート」</p> <p>プログラム ☆ シューベルト : 軍隊行進曲 井上まゆみ、松浦紫陽によるピアノ連弾</p> <p>☆ ベートーヴェン: ラズモフスキー第1番 第1楽章 カペー弦楽四重奏団の歴史的な名演(レコード)</p> <p>☆ 薄幸のテノール歌手、ヨーゼフ・シュミットの魅力的な歌声やヴィーナー・リート「私のママはウィーン生まれ」など(レコード) ほか</p>	<p>5月30日(土) 15:00~ (開場14:30)</p>	<p>入場料: 無料 定員: 100名</p> <p>(申し込み先着順・定員になり次第締め切り)</p>	<p>会場: 追手門学院 大阪城スクエア お申し込み方法: HP <a href="http://www.otemon-osakajo.jp/">http://www.otemon-osakajo.jp/</a></p> <p>お問い合わせ: 追手門学院 大阪城スクエア TEL 06-6942-2788</p>
<p>●追手門学院大学創立50周年記念事業</p> <p>アドバンスト・リサイタル vol. 33 「石井 理子 ハープ・リサイタル」</p> <p>プログラム ☆ 未定</p>	<p>6月16日(火) 12:50~ (開場12:30)</p>	<p>入場料: 無料 定員: 40名</p> <p>(申し込み先着順・定員になり次第締め切り)</p>	<p>会場: 追手門学院大学 將軍山会館 お申し込み方法: HP <a href="http://www.otemon-osakajo.jp/">http://www.otemon-osakajo.jp/</a></p> <p>お問い合わせ: 追手門学院 大阪城スクエア TEL 06-6942-2788</p>

地域文化創造機構 ニュースレター

発行/追手門学院大学 地域文化創造機構

お問い合わせ

追手門学院大学 地域文化創造機構「連携考房 童子」  
〒567-0816 大阪府茨木市永代町4-202(阪急茨木市駅前「Socio-2」2階)  
TEL:072-621-6015 FAX:072-622-1360 E-mail:douji@otemon.ac.jp